

令和 6 年度 総務常任委員会行政視察報告書

- 1 参加委員
 (委員長) 阿部英光 (副委員長) 早川仁美
 (委員) 岸正明 (委員) 金田俊信 (委員) 水島誠司 (委員) 柁木太郎
- 2 視察日時
 令和 7 年 2 月 1 1 日 (火曜日) 午前 9 時 3 0 分から午前 1 1 時まで
- 3 視察先
 筑後川防災施設くるめウス (福岡県久留米市)
- 4 視察事項
 (1) 河川防災施設としての役割について
 (2) これまでの取り組みとその成果等について
- 5 視察概要

	(担当 水島 誠司)
視察先選定理由	総務常任委員会では防災について所管していることにより先進事例や取り組みを調査研究していることから福岡県の筑後川の水災害について悩まされ、流域治水に長く取り組んできた久留米市のくるめウスを視察先として選定した。
内 容	<p>くるめウス出席者 くるめウス事業部長 (館長) 川島睦己様</p> <p>筑後川防災施設「くるめウス」は昭和 28 年の大水害を伝え大洪水、災害から身を守る治水の大切さや防災、減災、河川の保全、河川愛護意識啓発を目的として、平成 1 5 年 6 月、久留米市新合川の筑後川と支川高良川との合流点に開設した河川情報拠点施設である。</p> <p>災害時において地域の防災拠点、水位雨量情報や災害状況の発信などの役割を持ち地域防災センターとしての機能も有している。また、福岡件国民保護法における避難施設にも指定されている。</p> <p>平時には防災、減災などの学習会や市民団体の活動や資料の展示がされており、子ども達は遊びを通じながらいろいろ学ぶことができる施設となっている。</p>
考 察	<p>筑後川は九州最大の一級河川であり、上流と下流をつなぐ大切な交通路となっていた。明治、大正時代から洪水に見舞われ、先人たちの暮らしを守ってきた知恵等が参考にされ、現在も改修や整備が進んでいた。</p> <p>気候変動の影響による水災害リスクに備える必要があることは本市でも課題となっている。</p> <p>資料、パネル展示を見ながら当時の度重なる洪水被害がひどかった事が伺える。</p> <p>このことから市民の意識啓発にも繋げるため施設では子ども向けに防災学習や講習会等が頻繁に開かれていることが意識の高さに繋がっていると考えられる。</p> <p>筑後川流域の流域治水の主な取り組み事例ではダムの事前放流や田んぼダム、住宅等の各戸貯留、農業用排水の先行排水など、流域全体の関係者が協働で行うプロジ</p>

エクトが策定され、ハード・ソフト一体となった対策が行われており参考となった。
防災対策、意識啓発については各関係者と一体となり進めていくことが必要と考えた。

【視察時の様子】



備 考